

意思決定の二重過程モデルから見る不正行動

－意思決定の反応時間に着目して－

鶴田まなみ¹ 犬飼佳吾²

要旨

不正行動とその反応時間の関係を見るために実験を行った。ここでの不正行動とは、自身の金銭的利益を増加させるために嘘をつく意思決定のことである。結果は以下である。嘘をつくときの意思決定の反応時間は、正直な報告をするときの意思決定より長かった。二重過程理論を用いると、嘘の意思決定は熟慮的なシステム2に分類されるものであり、正直の意思決定は直観的なシステム1であると解釈することができる。また、様々な実験条件をコントロールしても、嘘をつくときの反応時間が正直な報告をするときの反応時間より長いという結果は頑健であった。

Keywords: Dishonesty, Lying, Dual system model, Reaction time, Response time, Lab Experiment

¹大阪大学 経済学研究科 Email : u533820h@ecs.osaka-u.ac.jp

²明治学院大学